

感染症発生動向調査委員会報告 12月

今月のトピックス

感染性胃腸炎の定点あたりの報告数が、警報レベルの「20」を超えました。

インフルエンザは、市全域ではまだ流行の目安となる定点あたりの報告数が「1」に達していませんが、金沢区、戸塚区、栄区及び泉区は高めです。

市内のインフルエンザ迅速診断キットにおけるB型の報告割合が3割近くを占めています。B型の多くが金沢区からの報告です。

平成22年12月の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。(ただし、性感染症については平成22年11月分)

全数把握疾患

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

12月は15日現在で2例の報告がありました。感染経路については不明です。

腸管出血性大腸菌感染症の発生時の対応については、横浜市衛生研究所HPを御覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infco157_guide.html

< レジオネラ症 >

12月は15日現在で1例の報告がありました。感染経路は不明です。レジオネラ症は、水中や土壌に通常存在しているレジオネラ属菌による感染ですが、15～43℃で繁殖し、循環式浴槽水、空調施設の冷却水、給湯器等の人工的な温水中に生息するアメーバ等原虫の細胞内で増殖するために、打たせ湯やジャグジー、加湿器、噴水等で発生したエアロゾルを吸入することで気道感染を起こして発症することが知られています。レジオネラ症については、国立感染症研究所HPを御覧ください。

<http://idsc.nih.go.jp/disease/legionellosis/sokuho0718.html>

< アメーバ赤痢 >

12月は15日現在で1例の報告がありました。感染経路は不明です。アメーバ赤痢は、飲食物を介した経口感染や性的接触により感染します。横浜市では1月から現在までに34件の報告があり、男性30件に対し女性は4件でした。経口感染によるものが9件、性的接触によるものが6件、感染経路不明が19件でした。

アメーバ赤痢については、横浜市衛生研究所HPを御覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html>

< ウイルス性肝炎 >

12月は15日現在で1例の報告がありました。B型肝炎でした。性的接触により感染しますが、遺伝子型(genotype)によって、臨床経過に差があることが知られています。

国内のgenotypeについては、国立感染症研究所HPをご覧ください。

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/27/319/dj3191.html>

また、横浜市での1月から現在までの肝炎の報告は、B型肝炎が2例のみでした。急性ウイルス性肝炎は、A型とE型は四類の届出、それ以外のウイルス性急性肝炎は五類感染症の全数届出となっています。

届出基準と届出様式は横浜市衛生研究所HPを御覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/infection/todoke.html>

< 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 >

12月は15日現在で1例の報告がありました。40歳代の女性です。創傷感染でした。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、死亡率の高い疾患です。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症については、国立感染症研究所HPを御覧ください。

http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g2/k02_46/k02_46.html

<HIV感染症>

12月は15日現在で1例の報告がありました。男性の同性間性的接触によるものでした。

HIV感染症については、横浜市衛生研究所HPを御覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html>

<梅毒>

12月は15日現在で2例の報告がありました。

梅毒については、横浜市衛生研究所HPを御覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/syphilis1.html>

<風しん>

12月は15日現在で1例の報告がありました。

風疹については、横浜市衛生研究所HPを御覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

定点把握疾患

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:91か所、内科定点:59か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計197か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計150定点から報告されます。

平成22年 週一月日対照表

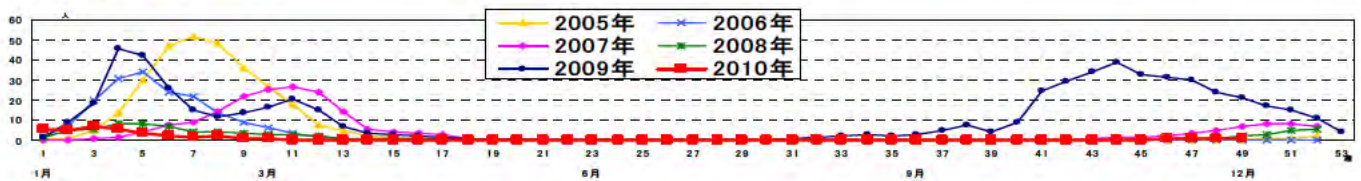
第45週	11月 8～ 14日
第46週	11月15～ 21日
第47週	11月22～ 28日
第48週	11月29～12月 5日
第49週	12月6～12日

<インフルエンザ>

第49週では定点あたりの報告数は0.98です。行政区別では金沢区が3.75、戸塚区が2.70、栄区が1.60、泉区が1.57と高めです。全国では0.93、神奈川県0.92、川崎市0.51、東京都1.04です。

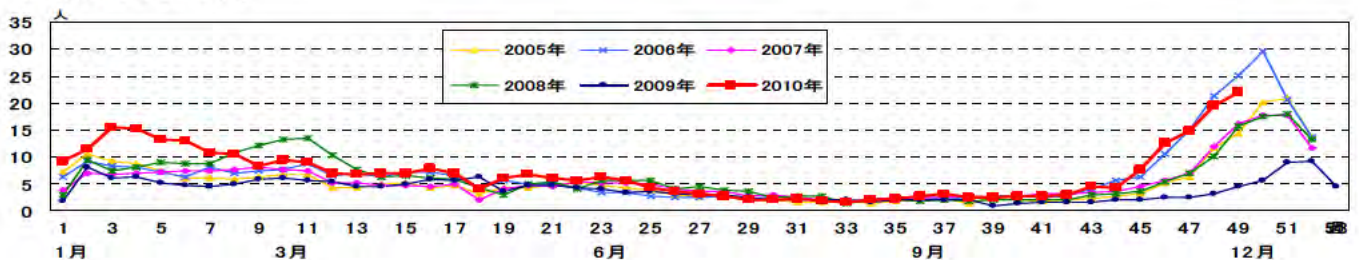
定点医療機関にご協力をいただいている迅速キットでは、A陽性が82件、B陽性が31件でした。金沢区ではA陽性が5件、B陽性が22件と、市内B型の多くが金沢区で報告されています。

11月からの市内集団かぜの検査では、金沢区の小学校がB型、泉区、都筑区、戸塚区、瀬谷区の計4施設ではA香港が検出されています。市内病原体定点では、今週はB型が1件(港北区)検出されています。全国の病原体検出状況では第36週から49週までにAH1pdm(新型)が165件、AH1(ソ連)は0件、AH3(香港)は380件、B(ビクトリア)は17件、B(山形)が2件検出されています。今後、金沢区のB型の流行に注目していく必要があります。



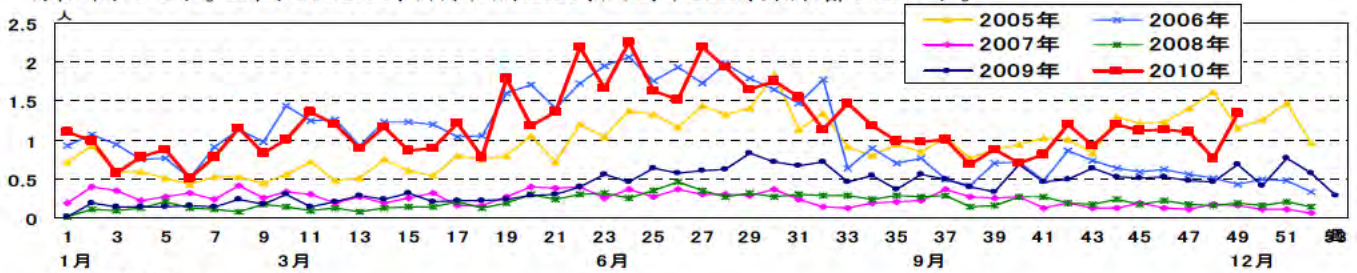
<感染性胃腸炎>

第49週では定点あたり22.01で、警報レベルです。行政区別では緑区36.60、神奈川区33.17、瀬谷区32.50、旭区32.40、港北区28.25、港南区27.80、泉区25.00、都筑区24.50、戸塚区23.67、磯子区22.00の10区が警報レベルです。全国では17.23、神奈川県21.26、川崎市22.06、東京都19.35と、広い範囲で流行が見られています。



<流行性耳下腺炎>

第49週では定点あたり1.34です。行政区別では、神奈川区が3.33、磯子区2.75、緑区2.20港北区2.13の順に高めです。全国では1.30、神奈川県1.23、川崎市1.09、東京都0.37です。



<性感染症>

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の10定点、および泌尿器科・皮膚科系の17定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

11月は、性器クラミジア感染症は男性18例、女性13例、性器ヘルペスウイルス感染症は男性4例、女性9例でした。尖圭コンジローマは男性4例、女性4例、淋菌感染症は男性16例、女性2例でした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 57 件(鼻咽頭ぬぐい液 49 件、ふん便 7 件、直腸ぬぐい液 1 件)、内科定点 13 件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点 2 件(眼脂)、基幹定点 3 件(鼻咽頭ぬぐい液 2 件、髄液 1 件)でした。患者の臨床診断名別内訳は、小児科定点は上下気道炎 32 人、インフルエンザ 7 人、胃腸炎 8 人、流行性耳下腺炎 2 人、RSV 感染症 2 人、アデノ感染症 2 人、ヘルペス感染症 1 人、手足口病 1 人、りんご病 1 人、発熱のみ 1 人、内科定点はインフルエンザ(疑いを含む)9 人、上下気道炎 3 人、感冒(胃腸型)1 人、また、眼科定点の 2 人は流行性角結膜炎、基幹定点の 3 人はそれぞれ不明熱、伝染性単核症疑い、脳炎でした。

1月7日現在、小児科定点のインフルエンザ患者 5 人からインフルエンザウイルス AH1pdm 型、2 人からインフルエンザウイルス AH3 型、上下気道炎患者 3 人とアデノ感染症患者 1 人からアデノウイルス(型未同定)、RSV 感染症患者 1 人から RS ウイルス、流行性耳下腺炎患者 1 人からムンプスウイルス、ヘルペス感染症患者 1 人からヘルペスウイルス、内科定点ではインフルエンザ(疑いを含む)4 人からインフルエンザウイルス AH1pdm 型、2 人からインフルエンザウイルス B 型、眼科定点では流行性角結膜炎患者 1 人からアデノウイルス(型未同定)が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上下気道炎患者 6 人と RS ウイルス感染症患者 1 人から RS ウイルス、胃腸炎患者 6 人からノロウイルス G2 型、上下気道炎患者 4 人からヒトコロナウイルス OC43 型、上下気道炎患者 3 人からインフルエンザウイルス AH1pdm 型、アデノ感染症患者 1 人からインフルエンザウイルス AH3 型、手足口病患者 1 人からコクサッキーウイルス A6 型、内科定点のインフルエンザ患者 1 人からインフルエンザウイルス AH3 型、基幹定点の伝染性単核症疑い患者からインフルエンザウイルス AH3 型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課 ウイルス担当】

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体が2件でいずれも起因菌は検出されませんでした(表)。

基幹定点からは菌株受付が10件、定点以外の医療機関からは菌株が1件でした。そのうち、基幹定点か

ら、腸管病原性大腸菌が2件(O18:H7)、腸管出血性大腸菌が1件(O157:H7, VT2)検出されました。

定点以外の医療機関からの1件は腸管出血性大腸菌(O157:H-, VT1&2)でした。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの7件で、A群溶血性レンサ球菌が6件から検出されました。その血清型はT1、T12、T25、TB3264でした。

表 感染症発生動向調査による病原体調査(12月) 細菌検査

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	12月			2010年1~12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					4	5
腸管病原性大腸菌		2			11	
腸管出血性大腸菌		1	1		5	55
腸管毒素原性大腸菌				1	3	
チフス菌						1
パラチフスA菌					1	1
サルモネラ				2		2
カンピロバクター				1		
黄色ブドウ球菌				1		
不検出	2	7	0	17	66	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	12月			2010年1~12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1	1			26	1	1
T4				3		
T6				1		
T12	3			10		
T13				1		1
T25	1			3		
T28				15		
T B3264	1			3		
型別不能				4		
G群溶血性レンサ球菌				1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			16		2	16
バンコマイシン耐性腸球菌			4			7
髄膜炎菌						1
<i>Streptococcus suis</i>						1
<i>Corynebacterium ulcerans</i>					1	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			1
セレウス菌			1			1
破傷風菌			1			1
不検出	1	0	0	30		10

* 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

T(T型別):A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【検査研究課 細菌担当】